

## 学術シンポジウム

# 霞ヶ浦導水事業は那珂川のアユと自然環境に どのような影響をおよぼすか？

共催：霞ヶ浦導水事業影響評価委員会

那珂川関係漁業協同組合協議会

(茨城県) 那珂川漁協・那珂川第一漁協・緒川漁協

(栃木県) 那珂川北部漁協・那珂川南部漁協・茂木町漁協・那珂川中央漁協

後援：栃木県漁業協同組合連合会

茨城県内水面漁業協同組合連合会

茨城県会場：9月6日(土) 午後1時から5時

「コミュニティーセンター城里」東茨城郡城里町石塚1428の1

(城里町役場敷地内) 電話 029-288-6100

栃木県会場：9月7日(日) 午後1時から5時

「ホテル花月」栃木県大田原市黒羽向町2

電話 0287-54-1105

参加自由

### プログラム

挨拶

13:00～

茨城会場 君島恭一(那珂川漁業協同組合長)

栃木会場 遠藤鏝郎(栃木県那珂川漁業協同組合連合会長)

趣旨説明

時代の流れと霞ヶ浦導水事業の根本問題

川崎 健(東北大学名誉教授)

一般報告

1. 導水事業で霞ヶ浦・千波湖は浄化されるのか？

高村義親(茨城大学名誉教授)

2. 日本一の天然アユにおよぼす導水事業の影響

高橋勇夫(たかはし河川生物調査事務所所長)

3. 導水による流量低下が魚類・生態系に与える影響

浜田篤信(元・茨城県内水面水産試験場長)

4. 導水事業で損なわれる生物多様性

丸山 隆(東京海洋大学助教)

総合討論

15:10～16:30

コメント：導水事業と那珂川の漁業権 丸山幸司(弁護士)

## 開催趣旨

那珂川はアユの漁獲量が日本一の河川です。毎年、春には膨大な量の天然アユが川を遡上（そじょう）し、夏には上中流域で餌を食み、秋には子持ちアユとなって中下流域で産卵します。卵からふ化した仔魚たちは海に下り、冬を暖かな浅海域で生育しながら春を待つ。まさに、山・川・海的那珂川の自然環境が日本一のアユ資源を支えているとあって過言ではありません。しかし、いま、この自然豊かな那珂川に霞ヶ浦導水事業にともなう取水口建設が計画され、漁業権をもつ関係漁協の同意もないまま、工事が強行されています。漁業権無視のこのような工事は日本全国でも例が無く、栃木・茨城両県すべての漁協が一致して工事差し止めを求めています。導水事業は総事業費 1900 億円、毎日 129 万トンもの那珂川の水を霞ヶ浦に、渇水期には毎日 95 万トンの水を霞ヶ浦から那珂川に送水しようとするものです。異なる自然生態系をもつ水系の水を大規模に移送する導水事業は、先ごろ国会で成立した生物多様性基本法の趣旨にも背くもので、那珂川水系の自然に様々な影響をおよぼすものと懸念されています。そこで、本シンポジウムでは導水事業が那珂川の自然環境とアユ、そして漁業にどのような影響を与えるのか？研究者らが学術的な見地から検討します。

問合せ先： 那珂川関係漁協協議会事務局（山本）

TEL:029(288)3034